



兵協連だより

HYOGO CONSUMER'S CO-OPERATIVE UNION

2012 8



7月6日(金)、神戸市東灘区民センターにおいて、「第90回国際協同組合デー・兵庫県記念大会」を開催。約600人が集いました。(関連記事P.4)



2012国際協同組合年を

契機にして

6月27日(水)の第62回総会と直後の第1回理事会におきまして、兵協連専務理事に選任されました。就任して約1か月、その重責に身の引き締まる思いです。暗中模索の日が続いていますが、組合員のよりよいくらしをめざす生協運動推進の役割と、兵庫県政とのパイプ役を果たせるよう頑張りたいと思います。会員の皆様、ご協力を宜しくお願いいたします。

今回、2012国際協同組合年の年に執筆の機会をいただきました。改めて生協運動の原点とは何かを自分なりに考えました。国際協同組合年を今年だけの取り組みとせず、2012年を契機にして協同組合間連携に拍車がかかり、行政や他の団体とも協力しながら協同組合がよりよい社会を築く実践を一つひとつ積み重ねていくことをめざし、私の日頃の思いを述べたいと思います。私は2008年2月から2010年3月までの2年間、コープこうべ総合ネットワーク推進室で「賀川豊彦献身100年記念事業実行小委員

会(コア100)」に参画し、改めて創業の父・賀川豊彦の思想と業績を学び、生協運動の原点に触れることができました。

この経験から学んだのは生協職員が生協で働くことの喜びを知ること、生協運動者であるという自覚、とりわけ、生協運動の情熱に炎を燃やすことが大変重要であることを実感しました。

・賀川豊彦の思想と業績

賀川豊彦は1888年に神戸で生まれます。4歳の時に父を失い、翌年には母も失います。5歳で徳島の本家に引き取られ孤獨な幼少年時代を送ります。その後、賀川家破産に伴う貧しさと相次ぐ病気を体験します。

徳島中学のときにアメリカ人宣教師ローガン先生、マイヤース先生との出会いが将来を決定することになります。両親を失った少年にとってキリストの愛は実に大きな慰めとなり洗礼を受けたのです。

CONTENTS

- | | |
|---|---------------------------------|
| 2. 想点 | 7. 兵庫県のページ |
| 4. 「第90回国際協同組合デー・兵庫県記念大会」報告 | 8. 「地球のステージ1」のご案内／県連日誌／編集後記／お詫び |
| 5. 兵協連 「第3回労働安全衛生研修・学習会」報告
単協通信／神戸市民生活協同組合 | |
| 6. 協同組合のかけ橋 | |



兵庫県生活協同組合連合会
専務理事

三宅 康平
(みやけ・こうへい)

今から約100年前の1909年12月24日、余命いくばくもないと宣言された21歳の賀川豊彦は、残された時間を最も貧しい人々のために献身しようと、スラムの中に移り住みます。その後の50年間は、困っている人、苦しんでいる人を何とかして助けたいと社会運動に邁進しますが、その原点と原型は13年半におよぶスラムでの働きにあります。

賀川豊彦が実践したスラムでの救貧・伝道活動は、「子供預所」、「職業紹介」、「膳飯屋」、「医療施設」、「無料宿泊所」など暮らしのあらゆる面から救済活動に携わり、労働運動、農民運動、普通選挙運動、無産政党樹立運動、協同組合運動などに続き、仲間たちの協力で数々の社会運動の原点となりました。

これらの運動は、賀川豊彦の表現で言えば「贖罪愛の精神」であり、一般的な表現で言えば、「愛と協同」あるいは「相愛互助」であり、助け合い支え合いの精神ということになります。

・生協運動の原点とは

現在は賀川豊彦が活動した時代と大きく異なります。賀川豊彦が指し示した「愛と協同」、「相愛互助」の実践は、今回の東日本大震災被災地

支援活動や地域の中での貢献活動につながる精神です。共に生きる社会をめざし、私たち生協職員は組合員のために何が出来たかを考え、実践することが生協運動の原点と言えるのではないのでしょうか。

今年1月13日(金)、東京国連大学で開催された「2012国際協同組合年キックオフイベント」に参加する機会がありました。パネルディスカッションは、「これから協同組合はよりよい社会を築けるか?」というテーマで議論が交わされましたが、その中で、「真摯な共助の取り組みは公益につながる」という言葉が大変印象に残りました。協同組合が行っている様々な共助の取り組みは、組合員以外の方々も受益者となっており公益につながるという発言でした。地域の中で生活に根ざした本物の共助の取り組みを行うことが公益につながるという、まさに生協運動の実践だと思えます。

・2012国際協同組合年を契機にして

2012国際協同組合年のスローガンは「協同組合がよりよい社会を築きます」です。ここでいう「よりよい社会」とはどのような社会を目指すのでしょうか。

キックオフイベント(1/13)の

時に紹介されたパン・ギムン国連事務総長のメッセージには、「協同組合は、雇用の創出や貧困の削減により組合員やコミュニティの一助となります。また、危機の際に最も打撃を被る若者、女性、高齢者、障害者などのグループに手を差し伸べ、環境・エネルギー問題への支援も期待されています。2011年3月11日に発生した3重の大災害を受けて、その復興を支援しています。」とありました。

協同組合が果たしてきているその価値が現状抱える日本の幾つかの課題を克服し、よりよい社会を築くと期待感を込めたメッセージだと思えます。

日本が直面する課題の一つで少子高齢化というテーマでは、例えば買物弱者への支援、地域での見守り活動、子育て支援などがあります。また、地域コミュニティづくりでは、特に若者、子ども、高齢者を巻き込んだコミュニケーションづくりです。こうした共に生きる社会づくりは協同組合の役割だと考えます。

2012国際協同組合年を契機に協同組合間連携を推進し、よりよい社会を築く一つひとつの実践につなげていくことが、私たち生協運動者の責務と言えるのではないのでしょうか。

国際協同組合デー 兵庫県記念大会を開催

テーマ『協同の力で未来を拓く』
～協同組合がよりよい社会を築きます～



7月6日(金)神戸市立東灘区民センターうはらホールにおいて、兵庫県協同組合連絡協議会(兵庫JCC)を組織する生協、農協、漁協、森林組合の主催により第90回国際協同組合デー・兵庫県記念大会が開催されました。

世界の協同組合に携わる人々が、平和とよりよい生活を築くために運動の前進を誓い合う「国際協同組合デー」は、毎年7月の第1土曜日と定められており、兵庫県では毎年7月の第1金曜日に開催しています。また同日に、第29回兵庫JCC委員会が併せて開催され、各協同組合(連合会)のトップが参加し、活動報告および年度方針の確認、意見交換などを行いました。

当日は、新保雅子さん(生活協同組合コープこうべ理事)の司会で開幕。兵庫県、神戸市をはじめ多くのご来賓の皆様をはじめ、合わせて約600名が参加。会場は満席になりました。

第一部の記念式典では、冒頭、昨年の東日本震災の犠牲者の方々へ黙祷をささげたあと、主催4団体を代表して兵庫県漁業協同組合連合会・山田隆義代表理事会長(兵庫県協同組合連絡協議会副会長)が挨拶。続いて、兵庫県副知事 吉本知之様、神戸市産業振興局長 谷口時寛様からご祝辞をいただきました。最後に、兵庫六甲JJA女性協議会会長 中西和子さんが「第90回国際協同組合デー兵庫JCC宣言」を力強く読み上げ、会場の参加者全員の賛同の拍手をもって第一部を終了しました。

第二部では、牡蠣養殖家でNPO法人「森は海の恋人」代表、京都大学フィールド科学教育研究センター社会連携教授の畠山重篤氏が「海と共に生きる―震災復興と森は海の恋人運動」をテーマに記念講演。「なぜ漁師が山に木を植えるのですか?と聞かれますが、海と森は密接につながっている。海藻やプランクトンから栄養を摂っている



神戸市産業振興局長
谷口時寛氏



兵庫県副知事
吉本知之氏



JCC宣言を力強く読み上げる
兵庫六甲JJA女性協議会会長 中西和子さん



兵庫県漁業組合連合会
山田隆義 代表理事会長

魚や牡蠣が育つには、山に木を植えることが大切です。山、川、海、人がつながることによって豊かになる。相互扶助の精神は、人と人がよりよい暮らしづくりを目指す協同組合の基本理念と同じです。」と畠山氏の震災復興への熱い想いに、会場の参加者は熱心に聞き入り楽しいひとときを過ごしました。



講演される畠山重篤氏

第90回国際協同組合デー兵庫JCC宣言

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、地震、津波そして原子力発電所の事故が重なった未曾有の災害として、被災地に壊滅的な被害をもたらしました。一方、東日本大震災の被災地に寄せられた支援の輪は、国内はもとより海外にまで広がり、改めて協同組合の基本理念である「相互扶助」の大切さを痛感しました。

さて、2012年は国連が定めた国際協同組合年(IYC)にあたります。これは、協同組合がこれまで社会経済の発展や世界の食料安全保障、金融危機といった面で果たしてきた役割を国連が高く評価し、各国の協同組合がこれらの問題にいつそう積極的に取り組むことに期待し制定されたものです。こうした評価は、協同組合が地域社会に根ざし、バブル経済とその崩壊の影響を最小限に抑え、社会経済システムに安定性をもたらしたことに由来します。

また、11月にはICA-AP(アジア太平洋)地域総会が、協同組合運動の父である賀川豊彦のゆかりの地であるここ神戸で開催され、そして、来る2013年は兵庫JCC設立30周年を迎えます。

このような中、私たち協同組合は、IYCのスローガンである「協同組合がよりよい社会を築きます」の精神を高く掲げ、協同組合の社会的認知度を高め、協同組合と地域社会の発展につなげていかなければなりません。

本日、2012国際協同組合年第90回国際協同組合デー・兵庫県記念大会の開催にあたり、生協、農協、漁協、森林組合など、兵庫県内の協同組合に集う私たちは、今こそ協同組合の原点に立ち返り、私たちの身の回りから協同の関係をつくりだすことはもとより、「食の安全・安心」や「環境の保全」にかかる取り組みをさらに前進させるとともに、「協同の力で未来を拓く」をスローガンに、人と人との心がふれあう、暮らしよい兵庫と協同組合の発展をめざし、一層努力していくことをここに宣言します。

2012年7月6日 2012国際協同組合年第90回国際協同組合デー兵庫県記念大会



併せて開催された「第29回兵庫JCC委員会」

兵庫JCC＝
兵庫県協同組合連絡協議会とは
【Hyogo-ken Joint Committee of
Co-operatives】

兵庫県協同組合連絡協議会(兵庫JCC)は、兵庫県下の生協、JA(農協)、JF(漁協)、JForest(森林組合)の4協同組合の相互交流と連携強化を目的に、第62回(1984年)の協同組合デーを機に設立したもので、本年で29周年を迎えました。

兵庫県生協連主催 第3回労働安全衛生研修・学習会を開催

7月27日(金)、兵庫県民会館において、生協の事業・経営という視点から見た職場の労務管理や安全管理、健康管理、ハラスメントについて、会員生協・団体を対象に「労働安全衛生研修・学習会」を開催。8生協1団体から役職員12名が参加しました。

当日は、社会保険労務士・茶園幸子氏を講師に研修・学習会をすすめました。「労務管理」については、労働基準法の基本からお話をいただき、雇用契約、賃金、労働時間関係（労働時間、休日、時間外・休日労働、年次有給休暇）について、わかりやすい解説とともに実例をあげながらすすめました。また「安全管理」については、労働災害がどのようにして起こるのか、労災を防ぐためのヒヤリハット・災害事例から学



社会保険労務士・茶園氏

びました。続いて「健康管理」については、長時間労働・こころの健康（セクシャルハラスメント、パワーハラスメント）について解説いただくとともに、事業主が講ずべき措置についての具体的なお話をいただき、生協職員にとって、働きやすい職場環境のありかたについて学習をすすめました。参加者からは、「労働行政に直接、携わった方からお話を聞ける機会になり勉強になった」「今まで働くことだけに目が行き、気づけないこともありましたが、今後の就業規則などの見直しの必要性も感じました」等の感想も寄せられ、実りある研修・学習会となりました。

単協通信

神戸市民生活協同組合

ラインの館でサマーコンサートを開催しました

開催しました

7月6日(金)に、ラインの館において「サマーコンサート」を開催しました。このコンサートは、日頃異人館を訪れる機会の少ない方々にも、音楽を通じて異人館により親しみを感じていただこうと企画し、大変好評をいただいております。

あいにくの梅雨空ではありませんでしたが、たくさんの方々にお越しいただきました。今回はフルート、バイオリン、チェロのアンサンブルで、ハイドンの「ロンドントリオ」、モーツアルトの「六つのウイーンソナチネ」など名曲のほか、独特な奏法が印象的なヴィラロボスの「ジェットホイッスル」など多彩な曲目が演奏されました。

参加者の方々からは、「うっとりしい梅雨空の気分を晴らしてくれて、素晴らしい一時を過ごさせて頂き、喜んでおります」、「それぞれに素晴らしい演奏で、一楽器ごとに聴いたり、三つの楽器のハーモニーを聴いたりして楽しめました」などの感想が寄せられました。ラインの館

については「生きた建造物の使い方をされていてうれしいです」、「異人館という日常とは異なる空間に身を置いてよかったです」といった多くのお声を頂戴しました。

ラインの館は無料開放異人館であり、地域の方々の絵や写真など作品展示も常時行っています。庭の美しさにも定評がありますので、ぜひたくさんの方々を訪れていただき、館の魅力を知っていただきたいと思います。

(通信員 鹿田裕子)



熱演に聴き入る参加者の方々

JF

兵庫県水産振興基金

根本的解決に見通し立たず ～韓国漁船の不法投棄漁具回収～

5月末で終漁した但馬地区の沖合底曳網漁業・ベニズワイカニかご漁業（自主休漁）は、6～8月の間は休漁となります。しかし、毎年、この時期になると、JF但馬、JF浜坂町の漁業者は、韓国漁船が不法に投棄した漁具の回収を行っており、今年も回収した漁具が各漁港に積み上げられています。



1999年1月、日本と韓国との間で日本海における日韓暫定多くのカニが掛かって死んでいる水域が設定され、新日韓漁業協定が発効し、両国の漁業者で同水域を利用することが決められました。ところが現状は、韓国漁船が暫定水域を占拠しており操業秩序が確立されていません。また、日本の排他的経済水域（EEZ）内での越境操業を繰り返し、日本の摘発を逃れる時には、漁具を海中に投棄しています。これは、操業の邪魔になるだけでなく、投棄漁具が海中で魚を取り続ける、いわゆるゴーストフィッシングと呼ばれる状況を作り出し、水産資源保護の観点からも極めて深刻な問題になっています。

この問題に対し、国は特別基金を設立し、回収に当たった漁業者の経費負担を行ってきましたが、この基金も終了し現在では水産庁の単年度予算で行われています。また、日韓漁業問題の解決には、本来は両国政府間交渉であるべきものですが、政府の外交力は弱く、現実には日韓民間漁業者団体間協議に委ねられた形となっており、なかなか解決の糸口が見えない状況が続いています。

但馬地区の漁港に積み上げられた不法投棄漁具は、その数の多さから水産資源に大きなダメージを与えているものであることは間違いなく、近年、水産資源枯渇について危機感を募らせているなか、早急な対策が求められています。



回収はいつまで続くのか…

JA

JAグループ兵庫

姫路城を稲で描こう ひめじ田宴アート

田んぼをキャンバスに見立て、色とりどりの稲で姫路城を描く「ひめじ田宴アート」の御田植え祭が6月16・17の両日、姫路市夢前町玉田の圃場で開かれ、親子連れや学生ら約500人が参加しました。

「ひめじ田宴アート」は、修理中の姫路城に代わって観光を盛り上げようと、JA兵庫西や地元企業団体で作る実行委員会が2008年から始めました。デザインは、一般公募の中から神戸芸術工科大学2年の山中愛さんの作品。姫路城の後ろで白鷺が羽を広げた美しく勇ましい姿を、1.6haの水田に白稲や紫稲計6品種、約25万株の苗で表現します。

16日の神事では、早乙女に扮したJA新入職員10人と、実行委員長を務める市村幸太郎代表理事組合長、JA兵庫信連の中村芳文代表理事理事長、井戸敏三知事、石見利勝姫路市長が神田に苗を植えました。神事に参加した職員は、「機械ではなく自分の手で直接苗を植えることで、食と農業の大切さや大変さがより体感でき、いい経験になった」と話しました。

会場ではトラクターの試乗体験や野菜の作付け体験もあり、約100人の子どもが農業を楽しみました。

田宴アートの見頃は7月中旬からで、10月には収穫祭を開きます。



神田に苗を植える早乙女ら



最近の消費生活相談事例

太陽光発電システムの訪問販売にご注意を！

節電意識が高まり、太陽光発電システムへの関心が高まっています。今後さらに普及が進むことが予想される一方で、悪質な訪問販売の増加が懸念されます。

事例

スーパーの展示会で太陽光発電システムの説明を受けた。販売員に「おたくの屋根に設置できるか確認しましょうか」と言われたので「確認だけなら」と思い、来訪を了承。確認に来た販売員が、「今日なら安くできる」と勧誘を3時間以上続けるため、やむなく契約してしまった。

解約したいが、事業者に訪問販売に当たらないので、クーリング・オフできないと言われた。

【アドバイス】

消費者が事業者の訪問を要請した場合は、無条件で解約できるクーリング・オフの適用はありません。しかし、今回の事例は、屋根に設置できるかどうかの確認について来訪を了承しているに過ぎず、契約について訪問を要請していないので、訪問販売に該当し、クーリング・オフが適用されます。

仮に、クーリング・オフが適用されない場合でも、断っても販売業者がしつこく勧誘を続け、困惑して仕方なく契約したときは、消費者契約法に基づき、取消ができます。

【注意と対策】

太陽光発電システムについては、販売員が、補助金制度や余剰電力の買取制度などを強調し、その収入で購入代金がまかなえると勧誘をするケースがあります。

事業者の説明を鵜呑みにせず、補助金が受けられる条件、発電量や売電量などの目安などを自分で情報収集したり、既に設置した人に聞いて、販売・設置事業者を複数選定し、複数の見積もりを取るなど、慎重な対応が必要です。

(兵庫県 生活科学総合センター 078-303-0999)

地球のステージ

～東日本大震災・未来篇～



宮城県名取市に診療所を構え活動する医師・桑山紀彦さんが歌・演奏・語り・映像でつづる大震災の爪あとと復興への希望。あれから1年半、東北の歩んだ道を一緒にたどり、わたしたちにできることを考えましょう。同時に、桑山先生のこれまでの国際医療支援活動も振り返ります。



桑山 紀彦さん

(NPO法人地球のステージ代表理事)

これまでタイ・カンボジア国境の難民キャンプを皮切りに、湾岸戦争後のイラク、ソマリア、旧ユーゴスラビア、東ティモールなどで医療支援活動を続けていた医師。現在も年に数回、東ティモールやパレスチナで医療支援活動を展開している他、地震等の緊急医療支援、被災者の心のケアにも携わっています。

2009年11月1日より宮城県名取市に「東北国際クリニック」を開業。3月11日の東日本大震災で被災したものの、翌日から24時間の診療体制をひいて診療にあたってきました。現在も心療内科医として、日々「心のケア」に携わっています。

と き：8月18日(土)
14時～16時(13時受付開始)

ところ：生活文化センター 2階ホール

定 員：200人(申し込み順)

参加費：500円(当日支払い)

中学生以下無料

主 催／第3地区 震災支援を考える会

後 援／兵庫県ユニセフ協会

コープこうべ生活文化センター

●お問い合わせ

コープこうべ第3地区

TEL.078-412-3771

県連日誌

8月6日(月) 兵協連第2回理事会

第1回貸付審査会

(県民会館 1201)

8月10日(金) 兵協連ピースアクション2012

広島被爆ピアノ平和コンサート

(県民会館 けんみんホール)

8月23日(木) 兵協連災害対策委員会

(県民会館 301)

編集後記

7月6日(金)に開催された「国際協同組合デー」の畠山重篤さんのご講演。森と川と海と人とのつながりを、大きな視点で見ることの大切さを感じました。2012年国連が森林の保護に取り組み人に贈る、「森の英雄」(フォレスト・ヒーローズ)を受賞された畠山さん。時間の経つのを忘れるほどユーモアたっぷりなお話と、身振り手振りのパフォーマンスに、会場のみなさんと一緒に引き込まれてしまいました。本日に、「フォレスト(森)」にとどまらないステキな「ヒーロー」でした。(中尾)

(お詫び) 本誌7月号にて、お名前間違いがございました。9ページ「単協通信」の「近畿労働兵庫兵庫地区統括本部」の欄で、講師のお名前を「野尻武敏」様とすべきところを誤って「野尻武雄」様と記載いたしました。また、12ページ「2012年度会員生協 総代会報告」の「神戸市民生活協同組合」の欄で、「平成23年度」とすべきところを誤って「平成22年度」と記載いたしました。お詫びし、訂正させていただきます。